

社外勉強会 令和7年度浄化槽維持管理技術研修

開催されている「浄化槽維持管理技術研修会」が行われ、社からも浄化槽管理士が参加しました。当日は3社による講義が実施され、以下の内容について学びました。

日東工器(プロワメーカー)
 ドーブロワの基本構造と作動原理、特徴、ポイント
 ブロワの内部構造から作動の仕組み
 日常の点検・維持管理の重要点
 ノルミポンプ(ポンプメーカー)
 水中ポンプの日常/定期点検・整備について
 PH・電流・電圧測定、絶縁抵抗測定、オイル点検
 浄化槽メーカー
 最新型浄化槽の概要、維持管理・清掃のポイント
 浄化槽の新しい機能や、効率的な維持管理の方法
 鹿児島県環境保全協会
 不適正浄化槽への対応、水質悪化時の考え方
 問題発生時の対応方法や、水質悪化に関する考え方
 江湾の美しい青い海を守るためにも、研修会や勉強会を通じて知識と技術を磨き、地域の水質保全・環境保全に引き続き取り組んでいく必要性を改めて実感した一日でした。

社外勉強会 第32回浄化槽維持管理技術研修会

「浄化槽維持管理技術研修会」が開催され、弊社からは浄化槽管理士11名が参加しました。

本県の汚水処理人口普及率は86.5%で、全国47都道府県中35位であること、生活排水処理施設の整備促進が必要であり、特に全浄化槽のうち、約3分の1が依然として単独処理浄化槽のままであることから、合併処理浄化槽への転換が重要であるといったお話がありました。

また、地域の環境を守り、皆様の快適な生活を維持するうえで、浄化槽の維持管理が非常に重要な役割を担っていることが強調されました。

後半は、浄化槽メーカー4社が参加し、維持管理に関する悩みや、不具合の改善方法について、質疑応答形式で意見交換が行われました。

最近の浄化槽は、小型・コンパクト化が進む一方で、構造がより複雑となり、維持管理の難易度も上がっているのが現状です。私たちも専門知識と技術の向上がより一層求められており、今後もより高いレベルで業務に取り組む必要性を実感しました。



新デザイン車両 錦江湾に住む魚たちの新デザイン車両

点検で使用される軽バン車両の型式とデザインが新しくなりました。

社では、私たちの業務の結果がカタチとなって表れている「鹿児島の川・海・自然を次世代までついでいこう」というミッションを掲げて日々励んでいます。その象徴でもある「錦江湾」に住む魚たちがいつまでも住み続けられることを願って、その意思を車両のデザインで表しています。まだ一部車両のみですが「秋太郎」ことパシオウカジキ、メジナやアラカブも追加されていますので、是非ご確認ください。 ※尚、車には実際のお魚は積載してません(笑)



社外より 地元の子供たちから頂いたお声かけ

・南方小学校を点検に伺った際、児童から元気に挨拶してくれました。自分の子もしっかりと挨拶できているか心配になりました。

・点検作業中、郡山小学校の子供たちにお仕事頑張ってくださいと声をかけてもらいました。ありがとうございます。元気をもらいその後も気持ちよく作業に取り組みました。

・点検中に松元小学校の生徒が「こんにちは」と挨拶してくれました。後から、中学生も通り同じく挨拶してくれました。地域で良い雰囲気が作れているのだと感じました。

・夏の暑い日に、吉野小学校近くで下校中の児童の皆さんが汗びしょりになりながらも、元気よく「こんにちは」と挨拶してくれました。こちらも負けずに、挨拶を返しました。気持ち良い挨拶に「ほっこり」しました。

「かごしまの青い海を次世代まで繋ぐ！」理念に賛同した新しい仲間です。研修を受け、順次配置されますので、よろしくご指導ください！

WELCOME 新入社員紹介

名前:今村 広大(いまむら こうだい)
 一言
 業務未経験からの挑戦となりますが、未来の鹿児島の自然を守り、豊かにできるよう微力ではありますが貢献していきたいです。



名前:平山 雄斗(ひらやま ゆうと)
 一言
 維持管理を通して生活排水をきれいにし、前職で培った丁寧な作業やコミュニケーション能力をいかして貢献していきたいです。



かたいもんそ

発行所 株式会社文化社
 本社 鹿児島市新栄町22-26
 TEL. 099-256-0075
 出張所 鹿児島市石谷町488
 支店 日置市伊集院町1264-3

第73号

平成15年5月創刊 「かたいもんそ」は、<http://bunka-inc.jp>にてご覧いただけます。73号は令和8年1月5日より配布開始しています。

社長:土屋 要九
 @BUNKASHA_RECRUIT

鹿児島でも線状降水帯発生による天災に見舞われました。不自由な日々をお過ごしの方々の一刻も早い復旧と以前の生活にお戻りいただけるように祈念します。

さて、社員が訪問した際、お客さまより温かいお言葉やお気持ちをいただいておりますことに対し、重ねて御礼申し上げます。日本のみならず世界のあちこちで気の休まらない政治、経済や気候を発端とする事象が発生し続けていますが、地元で地域や先輩方のおかげで、仕事をいただき安全な生活を送ることができていますことに感謝を申し上げます。

先日は、続けている薬丸野太刀自頭流の総師範が「ぶつかり稽古」についての話をされました。これは、腰を低く両手を広げて待つ受け手に、胸からぶつかっていく「アタリ」というものです。稽古始まりに体を温める意味も含め行っていますが、昔は学校でよくやっていたとのこと。受ける側も当たる側も、相手の力に配慮をしながら、相手を理解しながらやっていたので、いじめなどは全くなかったのだと仰せでした。体と体をぶつけて、ふれ合いがあれば相手のことが理解できます。他人同士ではすることはできませんが、教育の場面で取り入れるといいなあと感じたことでした。「これをすると〇〇のリスクが…」と安全を考えることは大切ですが、やれない・できない理由より、やれる理由を並べて前向きに事象をとらえていきたいものです。幸い、私たちの地元の子供たちは、先輩方のおかげで良い環境に恵まれ、健全に育つ環境があることを感じています。引き続きのご指導をよろしくお願いします。

社内勉強会 若手現場勉強会

社歴の浅い社員さんを対象に、比較的古いタイプの浄化槽に関する現場勉強会を実施しました。旧式の浄化槽に関する講習会はほとんどないにもかかわらず、まだまだ、現場では旧式の浄化槽も現役で活躍していることから、若手社員にその仕組みや特徴を理解して、完全なサービスが提供できるようにすることを目的に行いました。

旧式浄化槽の構造や動作原理を説明し、実際の作業手順について具体的に解説しました。単なる座学ではなく、現場で実物を確認しながら学ぶ、まさに「実学」です。特に、最近の設備とは異なる点が多く、トラブル対応やメンテナンスの際に正しい判断を下すためには、こうした知識が不可欠です。

誰が担当しても、サービス提供の際に自信を持ち、スムーズに対応できるように期待しています。知識と経験の積み重ねが安全で確実な作業につながります。今後もこうした勉強会を継続し、技術力の向上とサービス品質の維持に努めてまいります。



ボランティア 夏まつり花火大会後の清掃奉仕活動

郡山・松元地区では夏まつりが盛大に開催され、翌日には毎年恒例となっている清掃ボランティア活動に参加しました。これは、地元商工会や主催する地域コミュニティの方々と一緒に、翌朝の6:00頃から夏祭りの会場となったグランドやその周辺を、元あったようにきれいに清掃する活動です。

この地元の取組には、毎年参加協力させていただいていますが、会場周辺には花火の燃えカスなどは残っているものの、ポイ捨てされたゴミは年々減少しています。

当日は商工会の皆さま、地域の皆さま、そして弊社社員が一丸となり、汗を流しながら活動に取り組みました。

郡山・松元地区の賑わい創出や子供たちにとって夏の楽しいふるさとの思い出づくりに欠かせないこの夏まつりが、来年も無事に開催されることを心より祈念するとともに、日頃お世話になっている地元の皆さまに、弊社も微力ながら貢献していければ幸いです。参加を続けています。



文化社の社員さん 社員のあれこれ

「かたいもんそ」の記事を「1人1ネタ」社員から募集した中から、その一部をご紹介します。弊社社員のそれぞれの家庭生活や趣味や関心事のご紹介です。

Y1さんからのプチ情報

ロイヤルファミリー 鹿児島と縁が深い！～
皆さん、天皇家と鹿児島は、実はとても縁が深いのです。
ご自宅に、明治天皇や昭和天皇の肖像画が飾られているのを見たことはありませんか。おじいちゃんやおばあちゃんの家で目にした方も多いのではないのでしょうか。現天皇・第126代 徳仁(なるひと)天皇 の祖母である 香淳皇后 は、母親が最後の薩摩藩主・第29代 島津忠義 の娘であり、鹿児島と非常に深い縁を持っておられます。香淳皇后は、1903年3月6日、久邇宮邦彦王(くにのみやく)によしおう)の長女として誕生し、「良子(ながこ)」と命名されました。4歳のときに昭和天皇とご結婚が内定し、1924年1月26日に 結婚の礼が行われています。香淳皇后のお人柄は、「エンプレス・スマイル」と呼ばれる穏やかな微笑みが印象的で、日本画・書道・歌道など多趣味で芸術的な一面をお持ちでした。また、終生にわたり精力的に公務に励まれた「芯の強さ」も、大きな特徴として挙げられます。以上のことから、天皇家には尊いイメージもありますが、香淳皇后の存在で、より親近感を覚えます。鹿児島県人としても、誇りに感じずにはられません。



大ベテラン Y2さん

9月某日。昼間は暑さで釣りをする気力も無い為、夜焚き(夜釣り)に行ってきました。船長の話では赤イカ(ケンサキイカ)が釣れているとの情報があり、初めてのイカ釣りに挑戦してきました。釣果は10杯と貧果でしたが、この他にアジやサバ、真鯛等の釣果がありました。釣れたイカは船上で生きたまま沖漬けにしてみました。夜のビールのおつまみに最高でした！来年はもう少し早めにチャレンジします。(お見苦しい体型はお許しを！笑)



Kさんのおすすめ作品

『TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇』
1970年大阪万博のシンボル、『太陽の塔』や『芸術は爆発だ』等の言葉で有名な芸術家、岡本太郎氏の思想を映像化した作品となります。岡本太郎氏の作品、『若い太陽の塔』をモチーフにした巨人、タロマンと同氏の作品をモチーフにした奇獣との戦いを通して岡本太郎氏の思想や生き方を描いた本作は1970年代の特撮の形で映像化されており、『ウルトラマン』シリーズで有名な円谷プロダクションも制作に関わっています。岡本太郎氏の事をほとんど知らなかった自分でも楽しく鑑賞できた作品であり、また彼のダイナミックな思想を受け取ることで、生きる活力が湧いてくるので芸術に触れてみたい人、2025年の大阪・関西万博で万博に関心を持った人には特におすすめです。



入社1年目 Iさん一家の一コマ

今年、わが家では子ども3人の七五三を迎えました。着慣れない着物にそわそわしながらも一生懸命歩く姿や、少しだけしたお化粧でちょっと大人びて見える表情が本当に愛おしく、改めて大きくなったなあとしみじみ感じる一日でした。端午の節句など、日本には子どもの成長を願う行事がたくさんありますが、そのたびに「ついこの前まであんなに小さかったのに」と驚かされます。気づけば背も心もすくすく育っていて、成長の早さに嬉しさと少しの切なさや混ざったような、不思議な気持ちになります。ふと、「自分の親も、こんな気持ちで自分の成長を見守っていたのだろうか」と思うと、なんだか温かい気持ちになるのです。七五三は、子どもたちの節目であると同時に、家族にとって“今このとき”の尊さを教えてくれる時間でもあったように思います。皆さんもこの季節、身近な「今しかない瞬間」をぜひ大切にしてみてください。



保育園の子どもたちが職場体験に来てくれました。

みんなの目はキラキラ！普段なかなか見ることのできないお仕事の様子を、間近で見学しました。まずは「カメラ車」を見学。長いホースの先にカメラ車がついていて、下水道の中をのぞくことができる特別な車です。画面に映る映像に「わあ、すごい！」と驚きの声があがりました。次に見たのは「バキュームカー」。大きなタンクで汚水を吸い取る様子は、まるで巨大な掃除機！「どうやって吸ってるの？」と興味津々の質問も飛び交いました。子どもたちにとって、街をきれいに保つお仕事を学ぶ貴重な時間になったようです。これからも、みんなの暮らしを支えるお仕事を楽しく伝えていきたいと思います。

地域貢献 保育園児の職場体験



災害の備え 令和7年8月の鹿児島県における災害

2025年8月7日～8日、鹿児島県では、相次ぐ線状降水帯の発生により大規模な大雨災害が発生しました。九州地方に停滞した前線に暖かく湿った空気が流れ込み、鹿児島県・熊本県では線状降水帯が繰り返し発生。気象庁は2度にわたり線状降水帯の発生を発表。霧島市・溝辺観測点では1日で367.0mmの降水量を記録し、8月の月平均降水量を数時間で上回るという異常な豪雨となりました。



大雨による甚大な被害

この豪雨により、崖崩れ・浸水被害が発生し、停電・断水、交通インフラの寸断など、被害は広範囲に及びました。特に始良市では、崖崩れによる行方不明者も確認されています。現在も各地で復旧作業が続いており、負担は大きい状況です。私たちの暮らしが、いかに自然の力に左右されやすいか、そして備えの重要性を痛感させられます。

防災意識の大切さ

学校、住宅、交通、水道など、日常生活に直結するインフラが損壊すると、地域全体の生活が変わってしまいます。その中で、行政や地域が迅速に支援体制を整えていることは大変心強いことです。今回の災害を通して、「もし被災したらどうするか」を改めて考える必要があります。

- ・避難場所はどこか ・どのルートで避難するか
- ・家族とどう連絡を取るか ・非常持出品は準備しているか



地元の歴史 大正昭和の地元のようす

※写真出典：2005年4月(株)郷土出版社発行 「目で見る鹿児島市100年」



◀ 大正13年郡山小学校

鹿児島本城の外城第74郷校として始まった2階建ての校舎。村学生会主催の野球大会が運動場で行われ、和服姿の児童たちが地元学生に声援を送っている様子

昭和10年 郡山村役場 ▶

大正2年に専売公社の倉庫を払い下げを受けて建設された。戦時中は守護職だった先生が米軍の機銃掃射により最期を遂げたこともあった。昭和47年、新庁舎にバトンタッチされた。



◀ 昭和4年 石谷尋常小学校

もともと寺子屋だったものが、明治13年に尋常小学校として創立された。その50周年記念として、式典、学芸会や相撲大会なども開催されたようです。

昭和初期 妙円寺参り ▶

江戸時代から行われている鹿児島城下士の行事。午後6時ごろに平之馬場などに集合して、妙円寺までの往復40キロを歩き、翌朝9時ごろに帰ったそうです。子どもたちも鎧を着て一晩中歩いたんですね…



行事参加 妙円寺参りでの奉納



日置市政20周年記念・第75回妙円寺参りが10/25.26の日程で開催されました。「曾我どんの傘焼き・赤穂義臣伝輪読会」と並ぶ鹿児島三大行事の一つで1600年、関ヶ原の戦いに豊臣方にて参戦した島津氏17代大守島津義弘公を祭神とする伊集院の徳重神社境内で開催されました。徳川方優勢となり退陣した島津軍ですが、その際の退陣の剛勇と艱難辛苦を慕って、関ヶ原合戦の前夜9/14に参拝されたことから始まる行事です。非常時に備え、武を敬い重んじる気性と質実剛健により艱難辛苦に耐え抜く精神を養成する行事として明治～現在まで受け継がれており、併せて、奉納行事、展示、武者行列参拝や武道競技が伊集院の各所で行われます。

私は、「薬丸野太刀自顕流」の奉納演武させていただきました。尚、徳重神社は以前、妙円寺のあった場所に建立された神社で、義弘公位牌の安置される妙円寺は近くにあります。